

京都大学医学部附属病院 2018年度医療安全監査報告書

国立大学法人京都大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき監査を実施しましたので、以下の通り報告致します。

1. 監査の方法

国立大学法人京都大学医療安全監査委員会規程第2条第1項に基づき、京都大学医学部附属病院における医療安全に係る業務の状況について、病院長、医療安全管理部部長等から説明及び資料の提出、閲覧、質疑応答等の方法によって下記の監査委員が監査を実施しました。

委員長	山口	育子(認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長)
委員	伊藤	英樹(滋賀医科大学医療安全部副部長)
委員	佐和	貞治(京都府立医科大学医療安全管理部部長)
委員	平野	哲郎(立命館大学法科大学院教授)
委員	潮見	佳男(京都大学副学長)

2. 監査の実施日

- (1) 2018年7月31日(火) 13:00~15:10
- (2) 2019年1月28日(月) 14:15~16:15

3. 監査実施事項

(1)

<報告事項>

- 1) 医療安全管理部に求められる業務と現状の報告
- 2) 現時点における主な統計データについて

<審議事項>

- 1) 京都大学医学部附属病院における医療事故対応を踏まえた医療安全管理体制の検証について
- 2) 京都大学医学部附属病院における医療安全管理体制の改善に係る取り組みについて

(2)

<報告事項>

- 1) 医療安全管理部に求められる業務と現状の報告
- 2) 現時点における主な統計データ等について

<審議事項>

- 1) 京都大学医学部附属病院における医療事故対応を踏まえた医療安全管理体制の検証について
- 2) 京都大学医学部附属病院における医療安全管理体制の改善に係る取り組みについて

4. 監査の結果

(1) の報告事項 1) ~ 2) については適正に運営されていることを確認しました。特に 2) については、インフォームド・コンセントの主治医以外の同席義務のルール化にあたり、同席率の分析を始めているとの報告がありました。なぜ同席が必要なのかについて職員、患者に理解を促すことも踏まえてルール化する必要があるとの指摘があり、今後の展開について報告を待つこととなりました。また、医療安全や院内感染に関する講習会については、遅刻や途中退席を減らし、参加できない職員へのフォローアップを十分おこなうよう指摘がなされました。

(1) の審議事項 1) については、3つの事例に対する詳細な内容と対応についての説明がなされ、医療安全のプロセスと改善に係る取り組みが適切であるか検証をおこなったところ、すべて適切であると判断されました。それに加えて、今後のために事故発生時の初期対応の適切な説明、薬のリスクについて患者とかかわるスタッフ間での情報の共有の更なる必要性が指摘されました。

審議事項 2) については、特定機能病院間での相互チェックとなるピアレビューの講評結果の報告と、読影レポート確認機能の導入について説明がありました。特に読影レポートの確認は診療科によってばらつきがあるとの指摘がありましたが、確認率が低い診療科に自覚を促す取り組みをしていることの説明が病院側からなされました。

(2) の報告事項 1) については、医療安全管理部の業務と現状、院内ラウンドの評価について報告があり、委員からラウンドの良い評価事例は他部門にも共有して浸透していくようにと意見がありました。また、医療安全管理部長から新規発生の医療事故対応について報告があり、委員との間で質疑応答が交わされました。

報告事項 2) はインシデントレポートや死亡患者数、インフォームド・コンセント患者アンケート集計、院内研修会、画像診断管理加算にかかわる読影率の推移、患者満足度調査などの統計データについて報告がなされ、委員との間で質疑応答が交わされました。

(2) の審議事項 1) については、2つの事例に対する詳細な内容と対応について

の説明がなされ、医療安全のプロセスと改善に係る取り組みが適切であるか検証をおこなったところ、すべて適切であると判断されました。ただし、患者が死亡する前に調査を開始したために外部委員を近隣の医師に頼らざるを得なかったり、遺族に不満が残っていたりしている現状を踏まえ、今後遺族に対する十分な対応をする必要がある旨、委員から指摘がありました。

審議事項2)については、特定機能病院間での相互チェックとなるピアレビューの講評結果の報告と、読影レポート確認機能の導入後の画像検査未転記率について説明がありました。特に画像検査未転記率については、導入当初より確実に改善されていることが評価されました。

以上

2019年2月20日

国立大学法人京都大学医療安全監査委員会
委員長 山口 育子